

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念の理解を深め、より実践的に行動出来るよう取り組んでいきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	まだこの地域での具体的な地域活動も十分つかめていないが、少しでも地元の人との交流が図れるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ具体的な取り組みは出来ていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が最初の外部評価であるが、職員には各自自己評価を行ってもらい、全体会議のなかで外部評価の意義など理解してもらおうようにしている。	○	外部評価された結果を検討して、指摘された事項を改善しよりよい事業所にするため取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところまだ事業所の現況や、事業内容の報告などにとどまっている。	○	運営推進委員会の方々に、機会を見て日常生活の状況など見て頂き、意見などを出して頂ければと思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は出来るだけ市担当者との連絡を行い、現状の報告や市役所の意向など協議するよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者はグループの組織で行われる研修会に参加しているが、まだ職員の参加までには至っていない。	○	職員も研修等に参加する機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や個々の介護業務の中で虐待行為に関する理解を深めるよう行っている。	○	虐待防止については機会あるごとに資料など用意しながら認識を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書を中心に出来るだけ具体的に説明するように心がけ、必要に応じ前もって契約書等をお渡しし、内容を検討してもらうようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で利用者の意見を聞くよう心がけると共にご家族が訪問された時などにご家族の意見など聴くようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月身体状況や、生活状況など文書にして送ると共に、行事等の写真なども同封している。またご家族の来所時には出来るだけ利用者の現状や対応の変更など話し合うようにしている。</p>	<p>○ 事業所としての「事業所だより」的なものの発行を検討したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には来所時には出来るだけ面談し、要望等聴くように心がけ、出された意見はミーティング時などに職員に周知するようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃より職員とのコミュニケーションを図るように心がけると共に、年1～2回程度個々ミーティングを行い職員の意見等を聞き出すようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の方の状態やペースにあわせた勤務体制をくみ、管理者も利用者の状態に応じて柔軟な対応をとれるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>こちらからの職員の異動は基本的には行わないようにしているが、どうしてもやむを得ない時は、出来るだけ引き継ぎの時間を多くとるように心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループ内で行われる研修には、出来るだけ職員が交替で参加するようにし、また全体ミーティングの時などを利用して職員の研修を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後は順次外部の研修などにも職員を派遣していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在のところまだ具体的な取り組みは行われていない。</p>	<p>○</p> <p>現在地域の同業者の協議会等の参加を検討しており、その中で交流など図っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士の人間関係に留意しながら、気軽に管理者と話し合える雰囲気を作るようにして、職員のストレスや悩みなどを把握するように努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者はなかなか現場に来る機会は少ないが、管理者が必要に応じて運営者に報告し、指示を受けるとともに、時々開設者研修終了者に現場にきてもらい現場の状況などを把握してもらっている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至るまでの間に本人と会って相談する機会はあまり持てないが、できるだけ事前に家族や担当ケアマネなどに本人の状況や家族の要望などを聞いて、スムーズに利用者が利用できるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでの利用者の生活状況や、ご家族の要望などを聞いて、できるだけ早く家族との信頼関係をもてるようにして、利用者が安心してホームでの生活ができるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに相談に見えられたときは、状況をよく確認しながら、必要に応じて居宅介護支援事業所と連絡を取りながら、必要なサービスにつなげられるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用が決まった利用者に対しては、できるだけ事前に管理者および職員の代表が本人と会って、少しでも本人の不安をとってもらえるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できるだけ利用者の思いや悩み・要望などつかむように努力し、少しでもホームでの利用者の存在感がもてるように配慮している。	○	日常生活の中で、利用者の思いなど理解をより一層深めるようにして、関係を深めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された時などに、利用者の状況や、利用者が口に出されている要望などあれば伝え、希望者に対しては家族との外出の機会を持つことなども依頼している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の状況や本人の思いを尊重し、家族との外出の機会を持ってもらったり、行事に参加してもらいながら、よりよい家族関係が継続できるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人・友人などが会いに来てもらったときなどに、継続的に交流を図ってもらえるよう働きかけたり、知人が併設のデイサービスを利用したときなどできるだけ交流を図れるよう働きかけている。	○	地域的なこともあると思われるが、出来るだけなじみの人などが気安く訪れることが出来るような雰囲気を作っていくたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者がホールにいるときは、一緒に多くの会話がもてるようにしたりして、利用者同士の円滑な関係が保てるように配慮している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了した利用者に対して、家族にその後の状況を聞くなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、声掛けや言葉や表情などからその思いをくみ取るよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との話の中や家族の来所時などに少しずつ把握しながら、職員間でその情報を共有できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の細かな行動など出来るだけ注視し、一人一人の生活のリズムをつかみながら、その人の全体の把握をつかめるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に介護計画について職員間でモニタリングを行って、家族の要望などを加味しながら介護計画を作成している。	○	職員からも具体的な介護計画の項目が提示出来るよう研鑽を図っていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一回は利用者の現況などを把握しながら、状態が変更したときには随時計画の見直しをはかっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状態や職員の気づきなど個々のケア記録に記載し、朝の申し送り時などで情報の共有を図っている。	○	記録内容・記録方法などについて、さらに検討を加えより充実させたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	准看護師をパートで配置し利用者の体調管理には十分配慮し体調変化見られる時は早期に受診を図るなど柔軟な対応を図っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域的なこともありまだ協働体制などとられていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	業者の出張による理美容サービスを利用してもらったり、また必要に応じて併設のデイサービス利用者と共に行事などを行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところまだ必要となるような困難事例などないことから、地域包括支援センターとの協働などは行われていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て基本的には提携病院の往診で対応し、専門外にの疾病については、職員同行にて受診し、変化ある時は来所時や電話等で連絡するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議やミーティングの際に言葉遣いや記録などに、プライバシーや個人情報の取り扱いには十分注意を図るよう徹底を図っている。	○ 利用者に対する言葉遣いやプライバシーの確保などまだ不十分な点も多いので、さらに徹底を図っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なかなか利用者が自分の意志を表示することは少ないが、出来るだけ利用者との話をしていく中で少しでも本人が決める場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは作っているが、その日の利用者の体調や天候など加味しながら、柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは基本的には本人の意向で決めてもらっており、行事などの時はお化粧なども楽しんでもらっている。また理美容については基本的には事業所に来てもらって対応してもらっているが、家族が訪問時に対応されている方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは時々利用者の意向をきいてたて、準備・片づけなどについては出来る人には手伝ってもらっている。また昼食時には出来るだけ職員も一緒に食べるようにしている。	○ 食事の準備や片づけなど出来る人にはさらに手伝ってもらいようにし、メニューの相談などもしながらより一層食事を楽しめるよう支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつなど家族がもってきてくれた物は、居室にて食べてもらうようにしている。またタバコは吸っていた人は現在は体調を崩し喫煙していないが、喫煙している時は職員が預かり、希望する時は他の利用者の迷惑にならないような場所で吸えるよう配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の意志を重視しながら出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきに入浴出来るようにして、本人の意向など確認しながら行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は出来るだけ居間で過ごす時間を多くするようにして、日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。またどうしても寝付けない人には医師と対応を相談している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が出来る仕事などは出来るだけ行ってもらうようにして、感謝の意を表すと共に、外に出る機会なども出来るだけ多くもち、日常生活に変化をもたせられるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在利用者で金銭を所持している方はあまりいないが、必要に応じて職員と一緒に買い物に行き、買い物を楽しんでもらうようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望などに応じ日常的な散歩の他に、時々ドライブ等に出かけている。	○	全体での外出はどうしても限られてしまうので、単独あるいは気のあった人たちで外出する機会も多く持てるようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の要望等を加味して、定期的に日帰り旅行的なことを計画し行くと共に、可能な家族には利用者と一緒に外出する機会をとってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族等に電話を希望する時は、施設の電話にて居室でお話してもらうよう配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	早朝や夜間以外はいつでも訪問してもらっており、訪問された時は出来るだけ居室でゆっくりお話しが出来るよう心がけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の身体拘束に関する講習会等には積極的に参加するようにし、内部においても全体ミーティングの時などを使用し、認識の共有を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービスの利用者も居ることから、玄関は暗証番号式のドアになっているが、利用者が外に出たいと思われる時は見守りをしながら安全面に配慮して外出出来るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員は同じフロアで記録等の事務作業等を行いながら、利用者の状況を把握するようにし、夜間は居室が見渡せるリビングにて待機している。	○	立ち上がりなどが不安定な人には、居室にフットセンサーを配置し転倒予防を図っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り扱いに注意を要する物は、基本的に利用者の目に触れないようにするとともに、利用者の状態に応じて取り扱いを検討していく。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、職員が共通認識を持つように心がけ、事故が発生した時は速やかに事故報告を提出して職員が内容を周知するようにし、事故の再発を防ぐよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループの医療機関で行っているAEDの講習会には定期的に参加し取り扱いを習得するようにすると共に、夜間の緊急マニュアルを作成し、リビングに掲示している。	○	急変時や緊急時のマニュアルを整備し、徹底を図りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練・通報訓練・消化器の取り扱いなどの訓練を行っている。	○	「菜の花館園原」と隣接しているので、合同での避難訓練を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の身体状況の変化に伴い予想されるリスクなどについて家族に相談すると共に、それに対する事業所の対応について説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定期的にバイタルチェックを行い記録に残すとともに、体調の変化見られる時は早めに看護職員や管理者に報告し、状況に応じ早めに受診するように対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬剤情報は常に最新のものをファイリングして職員がいつでも確認出来るようにし、内容の把握に努めている。服薬に際しては本人に手渡し、確実に服用出来ているか確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者ごとの排便の記録をとり、水分補給や出来るだけ身体を動かすように促しながら、便秘の状態を見ながら下剤等を服用してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後職員の声掛けにより、職員の見守りのなか歯磨きを行ってもらっており、自分で出来ない人には介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は基本的な栄養士がたて、利用者の嗜好や身体状況なども考慮し、栄養バランスなどにも配慮している。また個々の食事摂取量も記録しチェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各洗面所には消毒用のアルコール及び手洗い用石鹸液を設置し手洗いの励行を促している。またインフルエンザの予防接種については家族の同意を頂き職員と共に予防接種を受けている。	○	感染症の予防や対応に対するマニュアルがまだ整備されていないので、整備していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・台所水回りは清潔・衛生を保つよう毎日消毒・清掃等を行っている。また冷蔵庫や冷凍庫などの食材の残りの点検は頻繁に行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口にはベンチやプランターなど置くとともに、玄関前には花壇等をつくり、季節に応じた花などが観賞出来るように心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは厨房に接しており食事を作っている様子などうかがえる。また出来るだけ花なども飾り、安らげる雰囲気を作るよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファをおき、一人で過ごしたり、仲の良い利用者とくつろげるようなスペースを作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋服ダンスは事業所として設置してあるが、そのほかの物は出来るだけ利用者になじみの物を持ってきてもらうようにしており、本人が居心地よく生活出来るよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアや居室は毎日一定の時間に換気しており、温度計や利用者の状態を見ながら、冷暖房は調整している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべて段差がないよう作られており、廊下など移動するところに手すりを設置し、出来るだけ安全に生活出来るよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には居室名及び氏名のシールを貼り、トイレなどが分かりづらい人のために大きく表示するなどの工夫を凝らしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の中庭にはテーブルやベンチをおき、陽気の良い時は休んだりお茶を飲んだり出来るようにしている。また庭には花壇や畑のスペースをつくり、利用者が日常的に楽しんだり、活動出来るような環境を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所は静かで自然環境に恵まれた場所に位置しているので、四季の変化を味わって頂きながら、ゆったりと生活を楽しんでもらうようにしている。また自分の家の次にこの事業者が一番良いと思われるような事業所になれるよう努力している。なお認知症デイサービスを併設しているので、デイサービス利用者とも時々交流を図るなどして、日常生活に変化をつけられるようにしている。